

令和元年度 第1回羽曳野市子ども読書活動推進委員会会議録（要録）

日 時： 令和元年7月24日(水) 午後1時30分～午後3時00分

場 所： LIC はびきの 教育研究所会議室

出席者：(委員) 菅谷委員、脇谷委員、田川委員、河津委員、遠山委員、細井委員、山下委員
山田委員、瀬戸口委員

(欠席) 堂山委員

(教育委員会) 高崎教育長、清水教育次長兼生涯学習室長、吉井社会教育課長補佐

(事務局) 奥野館長、岩佐課長補佐、江夏課長補佐、安東

傍聴者： なし

次第

1.委嘱状交付

2.開会

教育長あいさつ、委員紹介、事務局紹介、委員会設置規則の説明

3.議事

会長・副会長選出、会長・副会長就任あいさつ、傍聴要領の承認、

第2次計画期間中の取組み・成果と課題について、

第3次計画の取組み方法及び策定スケジュールについて、アンケート(案)の実施について

4.閉会

教育次長あいさつ

意見等

- ・第2次計画の図書館での数値目標が達成されていないが、小学校でそれに匹敵する利用がされているのではないかと思う。
- ・小学校に司書が配置されていることが重要。毎日同じ人が継続的にいることが大切。中学校では小学校の司書にかかわっていただく取組みをしているが、専任司書がいることが即実績に結びついていくことがはっきり出ている。
- ・小学生は人口が減っているのに、数値としては実質的には現状維持プラスアルファくらいか。中学校で数値が落ち込んでいるので、そこをどうにかしなくてはいけないことが重点的に取り組む課題になるのではないか。中学校での落ち込みを減らす方策をいろいろ出してもらって計画に盛り込めばいいのではないか。
- ・中学校に配本があっても人がいないと子どもには届かない。図書館司書が中学校に出向いてブックトークをしてもらうことを、中学校に司書が置けない分、この計画の中で実現してほしい。文庫連絡会・ボランティアで手伝えるなら協力したい。実現性がある計画ができないか。
- ・中学校に司書がない、市立図書館も人的に厳しい。本を買っているだけでは活かされない。中高生は時間がないが、図書館に呼びたい。図書館に足を運ぶ習慣がつけば、将来必要なときに図書館に行き調べることができる。読書という精神修養的にとらえることがあるが、今の時代は情報を使えるようになることが重要。図書館に行き自分で問題を解決できるということを知ってもらうためには中高生に図書館に足を運んでももらうことが大事だ。例えばダルビッシュ有文庫を使ってスポーツのイベントを結び付ければ本嫌いの中高生も図書館に行ってみようという気になる。そういうイベント

もしかけられないか。

- ・ダルビッシュ有文庫のお金はスポーツの本だけが対象か？
→スポーツを通じて青少年の健全な育成に資する本を、ということになっている。1年に5万円でスポーツの本を買っている。
→図書費が減る中で貴重なお金なので有効に使っていただきたい。
- ・図書館の正職員を入れていただくことで計画の実効性があがるのではないか。中学校6校への司書配置が難しい中、図書館に正職員を入れて中学校・高校にも行き渡る方法を考えてもらえないものか。
- ・文庫連絡会で何年も前から正職員の要望を続けている。子どもの読書状況は年々厳しくなっている。個々の状況の話はあったが、市全体としては誰が見ているのか。自分が見たことはわかるが市全体の状況がどうなっているかわかりにくい。同じまちで同じ子どもを相手に同じ目的でやっているのに歯がゆい。越えていける手立てがないのかと思う。
- ・陵南のYAコーナーのようなものを中央でもやってもらいたい。中央の奥で中高生が勉強していたが、その近くにYAコーナーがあればどうかと思う。
- ・留守家庭児童会へのセット貸出が3回から2回になっている理由は？
→社会教育課に配送をお願いしているが、年3回の配送が厳しいとのことで2回にした。その分、1回あたりの冊数を増やしている。譲渡している寄贈本の冊数は増えている。子ども読書推進では留守家庭児童会はのびしろのあるところ。取組みなど実現したい。
- ・留守家庭児童会へのボランティアへの定期的訪問などどうか。
→14ヶ所あり、場所によりばらつきがあるのが現状。場所ごとのサポートが必要と考える。
- ・保護者が図書館を利用する家庭の子どもは絵本が好きな状況。幼稚園におはなしボランティアが来てくださり、司書の役割も担ってくださっている。幼稚園の先生はなかなか研究する時間がない。ボランティアが教えてくれることで幼稚園の本がよくなっていく。
- ・京都アニメーションのニュースを見てすばらしいまんががあることを再認識した。図書館は本を読むだけのところではなく情報がいっぱいある所、わからないことがあれば行ってみようかと思える場所であるべき。特に中高生にはかたい本だけでなくおもしろいものがある雰囲気作りができればいいと願う。中央の多目的室が空いている曜日に中高生に開放するなどどうか。
- ・実施を予定しているアンケートは計画を作るのに基礎資料となる。アンケートで浮かび上がる結果を見て活かせる形とするべき。それで議論を闘わせるといい計画ができるのだが、このスケジュールでできるのかとも思う。みんなのアイデアを活かしたものを計画に盛り込んでほしい。
- ・それぞれの立場で意見があれば図書館に知らせる。
- ・タイトな日程なので工夫がいるかと思うが、アンケートの集計結果を早めに委員に送ってもらい、それぞれが意見を持ち寄り話しあい、それを反映させた計画になればいいと思う。
→スケジュールはタイトだが、事前資料を送るだけでなくそれに対する答えをいただきながら次の回を進め、計画を充実させていきたい。